

【集計結果】

6月11日（木）～12日（金）

「女性のための全国一斉労働相談～STOP！セクハラ・パワハラ・マタハラ～」

6月11日（木）～12日（金）に全国の地方連合会において実施した「女性のための全国一斉労働相談」について、下記の通り集約概要を報告する。

今回は、女性からの相談で特に多い3つのハラスメント（セクハラ・パワハラ・マタハラ）をテーマに設定するとともに、女性が安心して相談できるよう、地方連合会の女性委員会委員や女性の役職員、地元の女性推薦議員など女性の相談員を多く配置した。

【全体の特徴】

1. 2日間で500件以上の相談が寄せられる

相談件数は542件であった。女性からの相談は、7割強（73.3%）を占めている。年代別では、40代からの相談が最も多い（29.6%）。雇用形態別では、正社員以外（パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託社員、臨時・非常勤職員）からの相談が4割強を占めており、その中でもパートからの相談が最も多い（24.2%）。

2. 「医療・福祉」現場で働く人からの相談は2割以上

業種別では、「医療・福祉」からの相談が20.2%と最も多く、女性に限った集計でも、「医療・福祉」からの相談が25.3%となっている。医療や介護の現場で働く女性からは、上司や同僚からの暴言やいじめを訴える声が多く、厳しい職場環境に直面していることが浮き彫りになった。

3. セクハラ・パワハラ・嫌がらせの相談が3割超

相談内容では、「セクハラ・パワハラ・嫌がらせ」の相談が最も多く、全体の3割を超えている。セクハラ・パワハラ・マタハラなどの言葉は普及・定着してきているものの、これらのハラスメントが改善されていない職場も依然として存在している。また、男女別の賃金表や性別を基準にした扶養手当の支給要件などに関する相談も寄せられた。

男女雇用機会均等法の制定から今年で30年となるが、男女平等の職場環境は未だ実現途上にある。連合は引き続き、男女がともに仕事と生活の調和を図りながら働き続けることのできる環境づくりに取り組んでいく。

		2015年		
集計対象期間	2015年6月11日～6月12日			
受付件数 (受付件数のみ報告分含)	542			
報告(本部・地方)数	48			
項目	全体	件数	割合	
性別 (未報告除く)	男性	141	26.7%	
	女性	387	73.3%	
年代 (不明除く)	10代	4	0.9%	
	20代	53	12.4%	
	30代	83	19.5%	
	40代	126	29.6%	
	50代	101	23.7%	
	60代	52	12.2%	
	70代	7	1.6%	
雇用形態 (不明除く)	正社員	224	46.4%	
	パート	117	24.2%	
	アルバイト	21	4.4%	
	派遣社員	31	6.4%	
	契約社員	37	7.7%	
	嘱託社員	3	0.6%	
	臨時・非常勤職員	5	1.0%	
	その他	45	9.3%	
業種(上位) (不明除く)	1位	医療・福祉	73	20.2%
	2位	製造業	62	17.1%
	3位	サービス業(他に分類されないもの)	60	16.6%
	4位	卸売・小売業	43	11.9%
	5位	教育、学習支援業	21	5.8%
相談内容(上位) (未報告除く)	1位	セクハラ・パワハラ・嫌がらせ	162	30.1%
	2位	雇用契約・就業規則	41	7.6%
	3位	解雇・退職強要・契約打切	39	7.3%
	4位	年次有給休暇	32	6.0%
	5位	不払い残業、休日手当・割増賃金未払	19	3.5%

女性に限った業種別件数(上位)

	内容	件数	割合
1位	医療・福祉	63	25.3%
2位	サービス業(他に分類されないもの)	43	17.3%
3位	製造業	36	14.5%
4位	卸売・小売業	30	12.1%
5位	教育・学習支援業	14	5.6%

女性に限った相談内容(上位)

	内容	件数	割合
1位	セクハラ・パワハラ・嫌がらせ	132	33.4%
2位	雇用契約・就業規則	28	7.1%
3位	解雇・退職強要・契約打切	27	6.8%
3位	年次有給休暇	27	6.8%
5位	退職金・退職手続	14	3.5%

【セクハラ・パワハラ・マタハラに関する具体的相談事例（抜粋）】

〈セクシュアルハラスメント〉

- 上司の言葉がいやらしい。終業後には半強制的に食事につき合わされ、その食事の場でもセクハラ発言がある。上司を含め年配の男性が多く、「多少のセクハラ発言はたいしたことない」という雰囲気である。会社に相談窓口があるが、担当者が男性のため相談しにくい。
(女性／20代／正社員／関東地方)
- 飲み会の席で上司に、「キスしていいか」と聞かれ、断り切れなかったため抱きつかれキスをされてしまった。後日「あれは何だったのですか？」と聞いたら、「同意の上で、あのときは本気だった。恋愛ならセクハラにはならない」と言われた。
(女性／臨時・非常勤職員／公務／中部地方)
- 職場でセクハラを受け、セクハラした本人ではなく上司から謝罪された。その後の朝礼で「職場内でセクハラがあり、〇〇さんが被害にあったので、これからは注意してください」と実名を出された。それ以降、自分を見る周囲の目がこれまでと違うように感じる。精神的につらい日々を過ごしており、会社も休みがちである。
(女性／20代／派遣社員／製造業／中部地方)

〈パワーハラスメント〉

- 同僚から陰湿ないじめに遭っている。過去には、いじめによって退職に追い込まれた同僚もいる。母子家庭で辞めるわけにはいかないが、いつか自分も退職に追い込まれるかもしれないと心配である。
(女性／30代／正社員／医療・福祉／東北地方)
- 上司からのパワハラがひどく、若いスタッフが次々にストレスが原因で休職や退職している。職場状況の改善について会議で発言するとその上司から暴言を受け、別の施設に転任させられてしまった。何を訴えても取り合ってもらえず、職員たちは激しい暴言に恐怖を感じている。
(女性／医療・福祉／近畿地方)
- 月1回、昼休憩中に委員会がある。その委員会を体調不良で欠席したら委員長から「俺は聞いてない。連れてこい！」「お前は昼休みになると体調が悪くなるのか！」などの暴言を吐かれた。電話に出るのが遅くなったときには「お前はなんで電話に出ないんだ！」などと社長から恫喝された。
(女性／正社員／サービス業／中部地方)

〈マタニティハラスメント〉

- 切迫流産のため休んでいる。上司や同僚から理解が得られず、会社全体が妊娠を機に退職するという雰囲気である。つわりで休んだときに上司からは「仕事に影響があるから辞めた方がいい」と言われ、同僚の女性からも「私だったら妊娠したら仕事を辞める」と言われるなど周りからの言葉で追い詰められている。
(女性／30代／正社員／製造業／中部地方)
- 産休・育休をとった全員が降格される。女性の活躍を推進している中でこのような不利益扱いは許されるのか。反面、マスコミ報道などでは女性の管理職ができたなどをPRしているが、このようなやり方は許せない。
(女性／30代／金融・保険業／四国地方)